

草平の灯



令和6年2月5日

No 13

全校での取組

今年は元旦に能登半島で大地震が発生し、改めて地震の恐ろしさを知るスタートとなりました。1月最初の朝礼で「何か能登半島地震で被災された方に役立つことをしましょう」と話しましたが、JRC生活委員会から「募金を行いたい」という話を聞きました。子どもたちからこのような気持ちが生まれたことはすごくうれしいことです。26日、27日の2日間で集まった大切なお金は、赤十字を通して被災者の方に届けます。被災地ではボランティアが活躍するニュースを聞くと同時に、人がいない家に侵入して窃盗をする人も増えてきていると聞きます。草平小の子どもたちは、人の気持ちが分かる温かい大人になってほしいと願っています。

児童会役員の企画で、休み時間に学年の枠を超えて遊ぶ「なかよしタイム」が行われました。2人ペアで新聞紙の上に乗るゲームやクイズ大会で盛り上がりました。同じ学年ではなく、他学年と一緒に楽しめる企画はとてもよいものです。

これからも高学年の新しい企画が楽しみです。



能登半島地震で集まった募金金額 68,047円

校長講話より

校長先生の大切な施設「ナザレ園」

キム・ヨンソンという少年が韓国にいました。この人は小学生の時に、お父さんを日本人に殺されたので、ずっと日本人を恨んでいた人です。今から70年ほど前のことです。当時は日本と韓国の中が悪く、日本人と韓国人が結婚することは考えられない時代でした。

そんな時代でも、海を渡って韓国へ嫁いだ日本人がいました。韓国ではひどいいじめに合い、日本に帰る場所もなく、途方に暮れる人がたくさんいました。そんなひどい目に遭った日本の女性を守ろうと、キム・ヨンソンさんが1972年に韓国の慶州に作った施設が「ナザレ園」です。施設では何百人もの方が穏やかに過ごすことができた場所ですが、今現在は98歳になる女性が3人だけとなりました。まもなくナザレ園の歴史も幕を閉じようとしています。この施設を訪問して、日本の歌を歌ったり落語をしたりするのが校長先生の楽しみです。

今、世界ではあらゆる場所で争いが起き、助け合う心が失われてきています。外国の人と争うのではなく、助け合えるすてきな心を育ててください。「ナザレ園 慶州」で検索するとナザレ園がどんなところなのか詳しく知ることができます。ぜひ、校長先生の大切な場所について調べてみてください。今はソン・ミホさんという優しい方がおばあちゃんを守っています。

